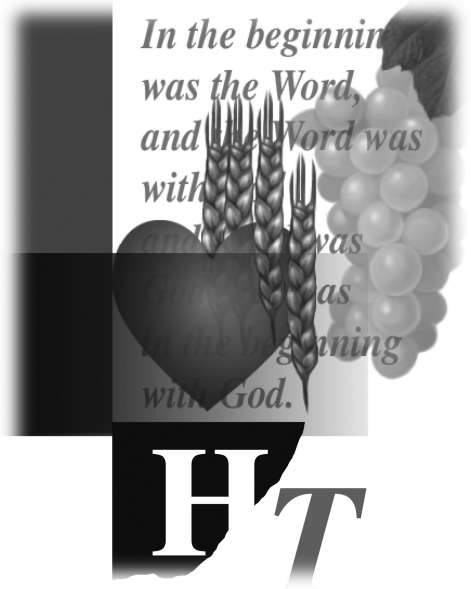
אריאל ARIEL MINISTRIES

2014 年フルクテンバウム博士セミナー

携挙・大患難時代・そして ユダヤ人の運命



講師：アーノルド・フルクテンバウム博士
通訳：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

目　次

患難期の前に起こる一連の出来事 THE SEQUENCE OF PRETRIBULATIONAL EVENTS 1

Ⅰ. SEQUENTIAL EVENTS（順に起こる出来事） 1

A. World Wars I and II（第一次、第二次世界大戦） 1

B. The Reestablishment of Israel（イスラエル国家の再建） 4

C. Jerusalem Under Jewish Control（ユダヤ人の支配下に置かれたエルサレム） 6

D. The Invasion by the Northern Alliance: Ezekiel 38:1～39:16（北の諸国連合の侵攻） 7

E. The One World Government（世界統一政府） 16

F. The Ten Kingdoms（10 の王国） 16

G. The Rise of the Antichrist（反キリストの出現） 17

H. The Period of Peace and False Security（平和と偽の安全の時期） 17

I. The Seven Year Covenant（7 年の契約） 17

Summary（まとめ） 18

Ⅱ. NON SEQUENTIAL PRETRIBULATIONAL EVENTS（時間順でない出来事） 19

A. Blackout I（暗黒Ⅰ） 19

B. The Return of Elijah（エリヤの帰還） 19

C. The Third Temple（第 3 神殿） 21

教会の携挙 THE RAPTURE OF THE CHURCH 23

Ⅰ. DEFINITION: THE CHURCH（教会の定義） 23

A. What is the Church?（教会とは何か） 23

B. When Did the Church Begin?（教会はいつ始まったか） 24

Ⅱ. THE RAPTURE OF THE CHURCH（教会の携挙） 25

A. The Events of the Rapture（携挙の出来事） 25

B. The Timing of the Rapture（携挙の時期） 29

Ⅲ. THE JUDGMENT SEAT OF CHRIST（キリストの御座の裁き） 33

A. The Principle - Romans 14:10（原則 - ロマ 14：10） 33

B. Basis - II Corinthians 5:10（基準 - 2 コリ 5：10） 33
C. The Results - I Corinthians 3:10-15（結果 - 1 コリ 3：10〜15） 33

IV. THE MARRIAGE OF THE LAMB（小羊の婚宴） 35

A. The Jewish Marriage System（ユダヤ的婚礼法） 35
B. The Marriage of Christ and the Church（キリストと教会の結婚） 36

ユダヤ人と患難期 THE JEWS AND THE TRIBULATION 41

INTRODUCTION - DEUTERONOMY 32:8-9（はじめに - 申 32：8〜9） 41

I. THE JEWS AND THE PURPOSE OF THE TRIBULATION（ユダヤ人と患難期の目的） 41

A. To Make an End of Wickedness and Wicked Ones（悪と悪人を取り除くため） 41
B. To Cause a Great World-wide Revival（世界大のリバイバルを来たらせるため） 42
C. To Break in Pieces the Will of the Holy People（聖なる民の心を粉砕するため） 43

II. THE JEWS AND THE BEGINNING OF THE TRIBULATION（ユダヤ人と患難期の始まり） 44

A. Daniel 9:24-27（ダニ 9：24〜27） 44
B. Isaiah 28:14-22（イザ 28：14〜22） 46

III. THE JEWS IN THE TRIBULATION（患難期におけるユダヤ人） 47

A. Jeremiah 30:4-7（エレ 30：4〜7） 47
B. Matthew 24:15-22（マタ 24：15〜22） 48
C. Revelation 12:1-17（黙 12：1〜17） 49
D. Zechariah 13:8-9 - The Final Result（ゼカ 13：8〜9 - 最終結果） 51

患難期の前に起こる一連の出来事
THE SEQUENCE OF PRETRIBULATIONAL EVENTS

＊患難期が来る前に起こる一連の出来事について学ぶ。
＊順に起こる出来事と、順不同の出来事がある。

Ⅰ．SEQUENTIAL EVENTS（順に起こる出来事）

＊9 つの出来事が起こり、それから患難期に入る。

A.　World Wars I and II（第一次、第二次世界大戦）

＊イスラエルは神のタイムテーブルである（申 32：8〜9）。
＊新聞的釈義の危険性を覚えよ。
＊聖書預言の釈義に基づいて、終末時代を論じる必要がある。
＊今は確かに終末時代（the last days）である。

＊第一次世界大戦とそれに続く第二次世界大戦
＊マタ 24：1〜8

「イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。そこで、イエスは彼らに答えて言われた。『このすべての物に目をみはっているのでしょう。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。』イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。『お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょう。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょう。』そこで、イエスは彼らに答えて言われた。『人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、「私こそキリストだ」と言って、多くの人を惑わすでしょう。また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、

産みの苦しみの初めなのです」

・マタ 23 章―ユダヤ人の宗教的指導者たちへの叱責

・23：37～39―補足説明

・24：1～2―神殿崩壊の預言。A.D.70 年に成就した。

＊質問①―いつ起こるのか（神殿の崩壊）

・マタイに答えは記されていない。ルカ 21：20～24

＊質問②―再臨のしるしは何か。

・マタ 24：29～31 に答えがある。

＊質問③―終末時代のしるしは何か。

・「世の終わり」とは、ユダヤ的表現である。

・この世（this age）

・来るべき世（the age to come）―メシア的王国

＊4～6 節で、否定的答えが与えられる（世の終わりのしるしではないもの）。

・偽キリスト（4～5 節）

・地域戦争（6 節）

・これらの出来事は、「この世」の一般的特徴である。

＊7～8 節で、肯定的答えが与えられる。

・「生みの苦しみ」の初め（始まり）

・「世の終わり」は、「生みの苦しみ」という言葉で表現される。

＊「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり」とはどういう意味なのか。

・その地区全部を巻き込む戦争

＊イザ 19：1～4

「エジプトに対する宣告。見よ。【主】は速い雲に乗ってエジプトに来る。エジプトの偽りの神々はその前にわななき、エジプト人の心も真底からしなえる。わたしは、エジプト人を駆り立ててエジプト人にはむかわせる。兄弟は兄弟と、友人は友人と、町は町と、王国は王国と、相逆らって争う。エジプトの霊はその中で衰える。わたしがその計画をかき乱す。彼らは偽りの神々や死霊、霊媒や口寄せに伺いを立てる。わたしは、エジプト人をきびしい主人の手に引き渡す。力ある王が彼らを治める。――万軍の【主】、主の御告げ――」

・エジプト全土を巻き込む戦争の描写

＊2 歴 15：1～7

「すると、神の霊がオデデの子アザルヤの上に臨んだ。そこで、彼はアサの前に出て

行き、彼に言った。『アサおよび、すべてユダとベニヤミンの人々よ。私の言うことを聞きなさい。あなたがたが【主】とともにいる間は、主はあなたがたとともにおられます。もし、あなたがたがこの方を求めるなら、あなたがたにご自身を示してくださいます。もし、あなたがたがこの方を捨て去るなら、この方はあなたがたを捨ててしまわれます。長年の間、イスラエルにはまことの神なく、教師となる祭司もなく、律法もありませんでした。しかし、その悩みのときに、彼らがイスラエルの神、【主】に立ち返り、この方を尋ね求めたところ、彼らにご自身を示してくださいました。この時期には、出て行く者にも、入って来る者にも平安がありませんでした。国々に住むすべての人々に大きな恐慌があったからです。そして彼らは、民は民に、町は町に相逆らい、共に打ち砕かれてしまいました。神があらゆる苦しみをもって、彼らをかき乱されたからです。しかし、あなたがたこそ強くあってほしいのです。力を落としてはなりません。あなたがたの働きには報いが伴っているからです』」

＊中東全体を巻き込む戦争の描写

＊オリーブ山の説教では、全世界が視野に入っている（14、21、30、31 節）。

＊「民族は民族に、国は国に敵対して」とは、メシア再臨の前の世界戦争である。

・イエス時代におけるユダヤ的表現である。

・創世記の注解書（Bereshit Rabbah）では「メシアの足音」と表現されている。

・ユダヤ神秘主義の注解書（Zohar Chadash）の記述

＊第一次世界大戦（1914～1918）

・シオニズム運動の進展

＊第二次世界大戦―先の大戦の継続

・イスラエル国家の設立

＊飢饉が伴う。

・1918～1919 年　疫病で 2,300 万人が死んだ。

・1920 年　中国の大飢饉

・1921 年　ロシアの大飢饉

＊地震が伴う（エンサイクロペディア・アメリカーナの資料）

・63～1896 年　記録された地震は 26 件のみ

・ほとんどの大地震は、1900 年以降に起こっている。

・第一次世界大戦と連動して、地震の数が増えている。

B. The Reestablishment of Israel（イスラエル国家の再建）

＊5 つの異なった立場がある。

（1）置換神学の立場

・現在のイスラエル国家は、歴史の偶然によってできた。

（2）イスラエルの最終的な回復を信じる立場

・現代のイスラエル国家は、聖書に預言された最終的な回復とは異なる。

・申 30：1～5、イザ 27：12～13、エゼ 39：25～29、など。

・上記（1）の立場同様、現在のイスラエル国家を歴史の偶然とみる。

（3）現在起こっているのは、イスラエルの最終的な回復である。

・より多くのユダヤ人が約束の地に帰還する。

・ある時点で民族的回心を経験し、救われる。

・それから、メシアが再臨される。

・患難期の預言は、ホロコーストですでに成就した。

・世界を巡り、ユダヤ人の帰還を促しているのは、この立場の人たちである。

（4）イザ 11：11～12 の解説の際に取り上げる。

（5）ユダヤ人の回復は 2 段階で成就するという立場

・最初は、不信仰な状態での帰還が起こる。患難期への準備である。

・次は、信仰のある状態での帰還が起こる。メシア的王国への準備である。

＊エゼ 20：33～38

「わたしは生きている、――神である主の御告げ――わたしは憤りを注ぎ、力強い手と伸ばした腕をもって、必ずあなたがたを治める。わたしは、力強い手と伸ばした腕、注ぎ出る憤りをもって、あなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。わたしはあなたがたを国々の民の荒野に連れて行き、そこで、顔と顔とを合わせて、あなたがたをさばく。わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地の荒野でさばいたように、あなたがたをさばく。――神である主の御告げ――わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたと契約を結び、あなたがたのうちから、わたしにそむく反逆者を、えり分ける。わたしは彼らをその寄留している地から連れ出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。このとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知ろう」

＊ここには、出エジプトの出来事との対比がある。

＊怒りから解放された帰還であり、怒りを受けるための帰還でもある。

・ホロコースト（怒り）からの解放は、イスラエル建国へとつながった。

＊これは、不信仰な状態での帰還である。

・「力強い手と伸ばした腕、注ぎ出る憤りをもって」（33、34 節）

・メシア的王の到来が目的であるが、そこに至る方法は怒りと裁きである。

＊神は再び怒りを注ぐ。

・反逆者は取り除かれ、残された者たちは主に立ち返る。
・「あなたがたと契約を結び」（37 節）
・新しい契約（エレ 31：31〜34）
＊新生した民が、メシア的王の下で約束の地に入る。これが最終的な回復である。

＊エゼ 22：17〜22
「次のような【主】のことばが私にあった。『人の子よ。イスラエルの家はわたしにとってかなかすとなった。彼らはみな、炉の中の青銅、すず、鉄、鉛であって、銀のかなかすとなった。それゆえ、神である主はこう仰せられる。あなたがたはみな、かなかすとなったから、今、わたしはあなたがたをエルサレムの中に集める。銀、青銅、鉄、鉛、すずが炉の中に集められるのは、火を吹きつけて溶かすためだ。そのように、わたしは怒りと憤りをもってあなたがたを集め、そこに入れて溶かす。わたしはあなたがたをかり集め、あなたがたに向かって激しい怒りの火を吹きつけ、あなたがたを町の中で溶かす。銀が炉の中で溶かされるように、あなたがたも町の中で溶かされる。このとき、あなたがたは、【主】であるわたしがあなたがたの上に憤りを注いだことを知ろう』」
＊エルサレムは、苦難の炉となる（精錬の必要性を示す描写である）。
＊イザ 1：22、25、48：10、エレ 6：27〜30、9：7、ゼカ 13：9、マラ 3：2〜3
＊不信仰な状態での帰還
・「青銅、すず、鉄、鉛であって、銀のかなかす」
＊精錬され、清められた国として、彼らは【主】に立ち返る。
＊そして、信仰のある最終的な回復が成就する。

＊エゼ 36：22〜24
「それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚したわたしの偉大な名の聖なることを示す。わたしが彼らの目の前であなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが【主】であることを知ろう。――神である主の御告げ――わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く」
＊新生の前に回復が起こる。

＊イザ 11：11〜12
「その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。残っている者をアッシリヤ、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々

から買い取られる。主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる」

＊これは、祝福を受ける準備のための帰還（信仰がある状態）である。

＊ここで、第 4 の立場を論じる。

・2 つの種類の帰還があることは認める。

・しかし、現在のイスラエル国家の建設が、預言の成就だとは断言できない。

・不信仰な状態での帰還は、いくつもあり得るからである。

＊しかし、この箇所は、不信仰な状態での帰還はひとつしかないことを示している。

・イザ 11：11～12：6 は、信仰のある状態での帰還を語っている。

・この帰還は、「地の四隅から」「再び」集められるというものである。

・この帰還が 2 度目であるなら、不信仰な状態での帰還は 1 度しかない。

・それゆえ、現代のイスラエル国家の建国は、預言の成就と言える。

＊患難期の前に不信仰な状態での帰還があると教えている聖句

＊ゼパ 2：1～2

「恥知らずの国民よ。こぞって集まれ、集まれ。昼間、吹き散らされるもみがらのように、あなたがたがならないうちに。【主】の燃える怒りが、まだあなたがたを襲わないうちに。【主】の怒りの日が、まだあなたがたを襲わないうちに」

＊ゼパ 1：7～18 では、「【主】の日」に関する説明があった。

・これは患難期に関する預言である。

・次に、2：1～2 で、患難期の前に起こることが預言されている。

＊1 節の「集まれ」は、不信仰な状態での帰還を示している。

＊2 節の「襲わないうちに」は、患難期の前の帰還を示している。

＊患難期の始まりはいつか。

・携挙の時ではない。

・反キリストとイスラエルの 7 年間の契約がそれである。

・この契約を結ぶためには、イスラエル国家の存在が前提となる。

C. Jerusalem Under Jewish Control（ユダヤ人の支配下に置かれたエルサレム）

＊イスラエルは、1948～1949 年の独立戦争で、エルサレムの新市街を獲得した。

＊旧市街はヨルダンが併合した。

＊第 3 神殿が建つためには、ユダヤ人のエルサレム支配が前提となる。

①ダニ 9：27

「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをや

めさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる」

②マタ 24：15
「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように）」

③2 テサ 2：3～4
「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します」

④黙 11：1～2
「それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。『立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる』」

＊患難期には神殿が建っており、機能している。
＊ユダヤ人が神殿の丘（旧市街）を支配していることが前提となる。
＊それが成就したのは、6 日戦争の時である。

＊世界大戦、イスラエル国家の再建、エルサレムの支配は、すでに成就した。
＊次の 6 つの出来事は、将来起こることである。

D. The Invasion by the Northern Alliance: Ezekiel 38:1～39:16（北の諸国連合の侵攻）

1. The Exposition of the Passage（この箇所の釈義）

＊北からの侵略軍
＊イスラエルの山々に侵入すると、彼らは滅ぼされる。
＊「who、where、why、what、how、when」を考える。

a. The Alliance: Ezekiel 38:1～6（諸国連合）

＊who の質問：エゼ 38：1～6
「さらに、私に次のような【主】のことばがあった。『人の子よ。メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して、言え。神である主はこ

う仰せられる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしは、あなたに立ち向かう。わたしはあなたを引き回し、あなたのあごに鉤をかけ、あなたと、あなたの全軍勢を出陣させる。それはみな武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。ペルシヤとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる』」

＊1～4 節　メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグ

「Son of man, set thy face toward Gog, of the land of Magog, the prince of Rosh, Meshech, and Tubal, and prophesy against him,」（ASV）

＊ゴグとは固有名詞ではなく、タイトルである。

＊マゴグ、メシェク、トバルという部族は、黒海とカスピ海の間に住んでいた。

・現在のロシア南部、イランとトルコの一部

・マゴグからモスクワ、トバルからトボリスクという名が出たか。

＊ロシュは現在のロシア北部にあった。

・ロシュからロシアという名が出た。

＊現在のロシアは、以上の地域をすべて含んでいる。

＊念を押すように、「北の果て」という言葉が出てくる（6 節）。

・エゼ 38：15、39：2 でも、同じ言葉が繰り返されている。

・イスラエルから見ると、モスクワはほぼ真北に当たる。

＊ロシアが北の諸国連合のリーダーであり、ゴグがロシアのリーダーである。

・ラビたちの見解も、これと同じである（The Artscroll Commentary）。

＊Vilna Gaon（18 世紀のユダヤ神秘主義の学者）の言葉

「ロシアの海軍がボスポラス海峡を通過する時、それは安息日の衣服をまとう時である（メシアの到来を待つ姿勢）」

・ボスポラス海峡は、ヨーロッパとアジアを分けるトルコの海峡。

・ダーダネルス海峡は、トルコ北西部のエーゲ海とマルマラ海を結ぶ海峡。

＊ゴグとマゴグの侵攻により、ヨセフの子（メシア）が殺される。

＊その結果、ダビデの子（メシア）が到来するようになる。

＊ペルシヤ：現在のイラン

＊クシュ：メソポタミアにある地名（創 2：13）かエチオピアである。

・メソポタミアなら、現在のシリアやイラクである。

・聖書にあるこの言葉の使用例を見ると、エチオピアであろう。

＊プテ：リビヤではなく、ソマリアである（エチオピアの隣国）。

＊ゴメル：現在のドイツ

・ミドラッシュとタルムードは、ゴメルをゲルマイニアと呼ぶ。

＊トガルマ：現在のアルメニア

＊「多くの国々の民」：以上述べた国々のことであろう。
＊ロシアと、イラン、エチオピア、ソマリア、ドイツ、アルメニアの連合。

＊興味深いことに、アラブ諸国は含まれていない。
・アラブ諸国ではないイスラム教国は含まれている。
＊イスラエルの北と南に位置する国々があるが、リーダーはロシアである。
＊共産圏が崩壊しても、その釈義は変わらない。
＊国名や地名は変化しても、地形自体は変化しない。

＊Artscroll（正統派ユダヤ人の注解書）に書かれたエゼ 38：2 の解説
・エルサレム・メギラー3：9 は、マゴグをゴート人としている。
・ゴート人は、ゲルマン系の民族である。
・ターガム・ヨナサン：創 10：2 のマゴグを Geramemia と表現している。
・ベレシット・ラバー37：1 は、マゴグを Germanya としている。

＊ロシアはイスラエルに侵攻してくるが、神がロシアを裁かれる。
・ロシアは伝統的に反ユダヤ主義の国で、今も状況は変わっていない。

b. The Object of the Invasion: Ezekiel 38:7～9（侵攻の目的）

＊where の質問：エゼ 38：7～9

「備えをせよ。あなたも、あなたのところに集められた全集団も備えをせよ。あなたは彼らを監督せよ。多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年に、一つの国に侵入する。その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。その民は国々の民の中から連れ出され、彼らはみな安心して住んでいる。あなたは、あらしのように攻め上り、あなたと、あなたの全部隊、それに、あなたにつく多くの国々の民は、地をおおう雲のようになる」

＊7 節：連合国軍のリーダーであるゴグへの語りかけが続いている。
＊8 節：侵略の地は、「イスラエルの山々」である。
＊9 節：侵略は大規模なものとなる。
＊イスラエルが不信仰な状態で帰還し、建国をしていることが前提となっている。
①その国は剣の災害から立ち直り、
②その民は多くの国々の民の中から集められ、
③久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。
④その民は国々の民の中から連れ出され、…。
＊この描写は、1948 年以降のイスラエルに当てはまる。

c. Gog's Goal: Ezekiel 38:10〜13（ゴグの目的）

＊why の質問への回答：エゼ 38：10〜13

「神である主はこう仰せられる。その日には、あなたの心にさまざまな思いが浮かぶ。あなたは悪巧みを設け、こう言おう。『私は城壁のない町々の国に攻め上り、安心して住んでいる平和な国に侵入しよう。彼らはみな、城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる。』あなたは物を分捕り、獲物をかすめ奪い、今は人の住むようになった廃墟や、国々から集められ、その国の中心に住み、家畜と財産を持っている民に向かって、あなたの腕力をふるおうとする。シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、あなたに聞こう。『あなたは物を分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために集団を集め、銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪をしようとするのか』と」

＊11〜12 節：侵略の目的は、略奪である。

・家畜（12 節）、銀と金（13 節）―戦利品を示す常套句である。

＊ロシアは何が欲しいのか。

・死海（450 億トンの鉱物）

・原油

・中東における活動拠点

・聖書は明示していないが、ロシアは自分の利益のためにそうする。

＊ロシアは事前に計画を立てている（11〜12 節）。

＊この侵略に反対する国々（13 節）

＊シェバとデダンは、北アラビアの国々である。

＊タルシシュとそのすべての若い獅子たち。

・「若い獅子たち」とは、タルシシュから誕生した国々である。

①アフリカ東岸

②スペイン（ツロという都市国家によって建設された）

・誕生したのは、中南米の国々である（ブラジルを除く）。

③英国

・USA、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、その他の西側の民主主義諸国

＊エゼキエル書の使用法から判断すると、スペインであろう。

d. God's Goal: Ezekiel 38:14〜16（神の目的）

＊why の質問への回答（神の視点から）：エゼ 38：14〜16

「それゆえ、人の子よ、預言してゴグに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民イスラエルが安心して住んでいるとき、実に、その日、あなたは奮い立つのだ。あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。彼らはみな

馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。あなたは、わたしの民イスラエルを攻めに上り、終わりの日に、あなたは地をおおう雲のようになる。ゴグよ。わたしはあなたに、わたしの地を攻めさせる。それは、わたしがあなたを使って諸国の民の目の前にわたしの聖なることを示し、彼らがわたしを知るためだ」

＊14～16a　最初、侵略は成功したかに見える。

＊16b 神が諸国の民の目の前で、ご自身の聖なることを示される。

e.　The Destruction of the Invaders: Ezekiel 38:17～23（侵略者たちの滅亡）

＊what と how の質問への回答：エゼ 38：17～23

「神である主はこう仰せられる。あなたは、わたしが昔、わたしのしもべ、イスラエルの預言者たちを通して語った当の者ではないか。この預言者たちは、わたしがあなたに彼らを攻めさせると、長年にわたり預言していたのだ。ゴグがイスラエルの地を攻めるその日、――神である主の御告げ――わたしは怒りを燃え上がらせる。わたしは、ねたみと激しい怒りの火を吹きつけて言う。その日には必ずイスラエルの地に大きな地震が起こる。海の魚も、空の鳥も、野の獣も、地面をはうすべてのものも、地上のすべての人間も、わたしの前で震え上がり、山々はくつがえり、がけは落ち、すべての城壁は地に倒れる。わたしは剣を呼び寄せて、わたしのすべての山々でゴグを攻めさせる。――神である主の御告げ――彼らは剣で同士打ちをするようになる。わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼の率いる多くの国々の民の上に、豪雨や雹や火や硫黄を降り注がせる。わたしがわたしの大いなることを示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせるとき、彼らは、わたしが【主】であることを知ろう」

＊17～18 節　侵略軍に裁きが下る。

＊19～20 節　地震

＊21 節　同士討ち

＊22 節　疫病、流血、豪雨、雹、火、硫黄

＊23 節　神の聖なることが示される。

f.　The Place of the Destruction: Ezekiel 39:1～6（滅亡の場所）

＊Dr. David. L. Cooper による解釈学の 4 大原則

①ゴールデンルール（字義通りの解釈）

②二重言及の法則（時間を隔てた 2 つの事項が同一の箇所に書かれている）

③再記述の法則（すでに書かれていることを、さらに詳細に説明する）

④文脈の法則

＊エゼ 39 章は、③の法則を用いて解釈すべきである。

＊エゼ 39：1～5

「人の子よ。ゴグに向かって預言して言え。神である主はこう仰せられる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。わたしはあなたに立ち向かう。わたしはあなたを引き回し、あなたを押しやり、北の果てから上らせ、イスラエルの山々に連れて来る。あなたの左手から弓をたたき落とし、右手から矢を落とす。あなたと、あなたのすべての部隊、あなたの率いる国々の民は、イスラエルの山々に倒れ、わたしはあなたをあらゆる種類の猛禽や野獣のえじきとする。あなたは野に倒れる。わたしがこれを語るからだ。――神である主の御告げ――」

＊2 節、4 節は、新しい情報である。

＊侵略軍は、イスラエルの山々で滅びる。

・イズレエルの谷の南（ジェニン）からベエル・シェバの北まで

・ドタン、シェケム、サマリヤ、シロ、ベテル、アイ、ラマ、ベツレヘム、ヘブロン、デビル、エルサレムなどを含む。

＊六日戦争（1967 年）以前は、エルサレムの西側のみイスラエルが支配していた。

＊KJV は、2 節を誤訳している。6 分の 1 が残されるという訳は、誤りである。

＊6 節では、ロシアの地が荒廃することが預言されている。

「わたしはマゴグと、島々に安住している者たちとに火を放つ。彼らは、わたしが【主】であることを知ろう」

・ロシアは世界の政治的強国であり続けることができなくなる。

g. The Sanctification of God's Name: Ezekiel 39:7～8（神の御名の聖別）

「わたしは、わたしの聖なる名をわたしの民イスラエルの中に知らせ、二度とわたしの聖なる名を汚させない。諸国の民は、わたしが【主】であり、イスラエルの聖なる者であることを知ろう。今、それは来、それは成就する。――神である主の御告げ――それは、わたしが語った日である」

＊諸国民だけでなく、イスラエルも神の素晴らしさを認めるようになる。

＊イスラエルでリバイバルが起こる。

h. The Seven Years of Burning: Ezekiel 39:9～10（7 年間の火）

＊エゼ 39：9～16 は、侵略のフィナーレの部分である。

＊9～10 節は、敵の武器を燃やすのに 7 年かかると説明している。

「イスラエルの町々の住民は出て来て、武器、すなわち、盾と大盾、弓と矢、手槍と槍を燃やして焼き、七年間、それらで火を燃やす。彼らは野から木を取り、森からたきぎを集める必要はない。彼らは武器で火を燃やすからだ。彼らは略奪された物を略奪し返し、かすめ奪われた物をかすめ奪う。――神である主の御告げ――」

i. The Seven Months of Burial: Ezekiel 39:11～16（7 ヶ月の埋葬）

＊死者の埋葬に、7ヶ月かかる。

「その日、わたしは、イスラエルのうちに、ゴグのために墓場を設ける。それは海の東の旅人の谷である。そこは人が通れなくなる。そこにゴグと、そのすべての群集が埋められ、そこはハモン・ゴグの谷と呼ばれる。イスラエルの家は、その国をきよめるために、七か月かかって彼らを埋める。その国のすべての民が埋め、わたしの栄光が現されるとき、彼らは有名になる。――神である主の御告げ――彼らは、常時、国を巡り歩く者たちを選び出す。彼らは地の面に取り残されているもの、旅人たちを埋めて国をきよめる。彼らは七か月の終わりまで捜す。巡り歩く者たちは国中を巡り歩き、人間の骨を見ると、そのそばに標識を立て、埋める者たちがそれをハモン・ゴグの谷に埋めるようにする。そこの町の名はハモナとも言われる。彼らは国をきよめる」

＊11節　墓は地中海の東、ヨルダン渓谷に設けられる。その地は改名される。

＊12～13節　死体を発見し、埋葬するのに、7ヶ月かかる。

＊14～15節　国を巡り歩く者たちが任命される。

＊16節　墓地を見下ろす町が建設される。ハモナとは、群衆という意味である。

＊7年、7ヶ月、という数字は、侵攻の時期を判定するための重要情報である。

2. The Timing of the Invasion（侵攻の時期）

a. Basic Observations（基本的観察）

＊エゼ38：8、11～12、14

①イスラエルは国になっている。

②荒廃した地に人が住むようになっている。

③イスラエルは城壁のない村々に住むようになっている。

④イスラエルは安心して住んでいる（平和という意味ではない）。

＊以上のことは、すべて現在のイスラエルに当てはまる。

＊侵攻は、いつ起こってもおかしくない。患難期前の時期である。

＊時期に関しては、5つの異なる見解がある。5番目が正解である。

b. The Midtribulation View（患難期の中間）

＊安心して住んでいる状態は、反キリストとの契約の結果である（ダニ9：27）。

＊この侵攻は、ダニ11：40にある「北の王」の侵攻と同じである。

＊反論

①安心して住むとは、必ずしも平和な状態を意味していない。

②なぜ神がこの時点で介入し、その後さらに厳しい患難を来たらせるのか。

③ダニ11：40の「北の王」とエゼ38：1～39：16のゴグは同一人物ではない。

・ダニエル書では、「南の王」はエジプト、「北の王」はシリアである。

＊この説では、7 年と 7 ヶ月の問題が解決できない。

c. The Posttribulation/Armageddon View（患難期後/ハルマゲドン）

＊患難期の終わりに起こる。つまり、ハルマゲドンの戦いと同じである。

＊反論（エゼ 38 章と 39 章とハルマゲドンの戦いは異なる）

①前者では侵攻してくる国の数は少数であるが、後者では全世界が攻めてくる。
②前者では北から攻めてくるが、後者ではあらゆる場所から攻めてくる。
③前者では略奪が目的であるが、後者ではユダヤ人の滅亡が目的である。
④前者では侵攻に反対する国々がいるが、後者ではそれがない。
⑤前者では天変地異により滅びるが、後者ではメシアの再臨によって滅びる。
⑥前者ではイスラエルの山々で滅びるが、後者ではペトラとエルサレムの間。
⑦前者ではイスラエルは安心して生活しているが、後者では逃亡している。

＊この節では、7 年と 7 ヶ月の問題が解決できない。

d. The Interlude View（移行期の出来事）

＊患難期と千年王国の間に時間があるというのが、根拠になっている。

＊反論

①移行期はあるが、それは 7 年ではなく、75 日である。
・異邦人の裁き、旧約時代の聖徒の復活、患難期の聖徒の復活などが起こる。
・ダニ 12：7 によれば、患難期の後半は、42 ヶ月（1260 日、3 年半）である。
・ダニ 12：11 によれば、神殿が汚されるのは 1290 日の間である。
・ダニ 12：12 によれば、千年王国の成就まで 1335 日である。
・患難期から千年王国までの移行期は、75 日しかない。

②この説では、埋葬は千年王国において少なくとも 135 日続くことになる。
・7 年間武器を燃やすことも千年王国で行われることになる。

e. The Postmillennium View（千年王国後）

＊黙 20：7〜9 が根拠となっている。

＊反論

①エゼ 38〜39 章の侵攻は北からやって来るが、黙 20：7〜9 では世界中から。
②7 年の 7 ヶ月の問題が解決できない。
・黙 20：7〜9 では、地は直ちに滅ぼされている。

f. The Pretribulation View（患難期前）

＊エゼ 38：1〜39：16 を解釈した結果、いくつかの結論に到達する。

①イスラエルは患難期の前に再建され、安心して住んでいる。

②ロシアを中心とした連合軍が、患難期の前の安全な時代に攻めてくる。
③連合軍は、患難期の前にイスラエルの地で滅ぼされる。

(1) Support（支持理由）

①エゼ 38：1～39：16 の描写は、現在のイスラエルの状態に適合する。
・38：8　「剣の災害から立ち直り」
　* 1900 年間で 46 回の侵略と独立戦争があった。
・8 と 12 節　「多くの国々の民の中から集められ」
　* ユダヤ人は、80～90 の国から帰還している。
・8 と 12 節　「久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる」
　* 現在のイスラエルは、新しい村や町を建設している。
・11 と 14 節　「安心して住んでいる」
　* 安心とは平和のことではない。ヘブル語の語幹は「バタハ」（安全）である。
・11 節　「城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる」
　* 現在のキブツの状態に当てはまる。
②ロシアは共産主義が崩壊した後も、世界の強国としての位置を占めている。
・第二次世界大戦後のイスラエル建国と同時期に大国となった。
③7 年と 7 ヶ月の問題が解決できる。
・患難期の少なくとも 3 年半前に侵攻が起こるということである。

(2) Objections（反対理由）

①エゼ 38 章と 39 章は、イスラエルの帰還を論じている箇所である。
・その通りであるが、これは不信仰の状態での帰還である。
・イスラエルは、侵攻を経験した後に、信仰を持ち始める。
・信仰のある回復は、40～48 章で取り上げられる。
②「安心して住む」とは、千年王国の状態を描写する表現である。
・聖書では、千年王国以外の文脈でこの表現をより多く用いている。（レビ 25：18～19、申 12：10、1 サム 12：11、1 列 4：25、詩 4：8、16：9、箴 1：33、3：23、29、イザ 47：8、エレ 49：31、ゼパ 2：15）
・エレ 49：31 は、エゼ 38：11 と同じ言葉を使っている。
③携挙の緊急性の教理を破壊する。
・患難期の始まりは、反キリストとの 7 年間の契約である。
・携挙は、患難期の始まりではない。いつでも起こり得る。
④信仰を持ち始めたイスラエルが、なぜそんなに急に背教していくのか。
・旧約聖書の歴史を見ると、短時間で背教する例は多い。
⑤北からの侵攻は、終わりの時代に起こる。
・「終わりの時代」とは、終末時代を指す一般的な用語である。

・教会時代の終盤もこの中に含まれる。
・患難期前の侵攻を主張するのは、携挙前の侵攻を主張するのとは違う。
⑥反キリストとの 7 年間の契約までは、イスラエルは土地に対する権利がない。
・イスラエルは、アブラハム契約によってその権利を得た。
・国連は、1948 年にイスラエルの建国を承認した。

E. The One World Government（世界統一政府）

＊ダニ 7：23〜24

「彼はこう言った。『第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す』」

＊患難期の前に起こる第 5 の出来事は、世界統一政府の出現である。
＊第 4 の異邦人の帝国が、最終的に全世界を支配するようになる。
＊ローマ帝国は、ここに預言されている帝国ではない。
＊帝国主義の帝国
・最初の段階が、ローマ帝国である。
・次に東西に分裂する。バランス・オブ・パワー。
・東の軸は、ロシアとイスラム諸国が中心に形成されている。
・西の軸は、民主主義国家である。
・やがて、この東西の軸が統一政府に道を譲る。
・ロシアと、同盟国のイスラム諸国はイスラエルの地で滅びる（エゼ 38：1〜39：16）。
・また、ロシア国内も裁きを受ける。
・東の軸が消滅するので、統一政府への道が開かれる。

F. The Ten Kingdoms（10 の王国）

＊第 6 の出来事は、統一政府が 10 の王国に分裂することである。

「十本の角は、この国から立つ十人の王」（ダニ 7：24a）

＊これは、EC のことか、EU のことか。
＊新聞を基にした釈義はよくない。
＊統一政府が崩壊した後に、10 の王国が登場する。全世界を支配する。
＊EU は王国のひとつになる可能性はあるが、10 の王国すべてではない。
＊患難期の前に始まった 10 の王国の時代は、患難期の中間まで続く。

G. The Rise of the Antichrist（反キリストの出現）

＊10 の王国時代の後、反キリストの支配が始まる。

「彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す」（ダニ 7：24b）

＊患難期の前に反キリストが出現する。第 7 番目の出来事。

＊2 テサ 2：1～3

「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです」

＊「主の日」（患難期）の前に 2 つのことが起こる。

①背教が起こる。

・教会の背教は、1900 年代の前半に起こり、20 世紀、21 世紀と続く。

②不法の人（滅びの子）が現れる。

・教会が携挙されているかどうかは、分からない。

・反キリストは、イスラエルと契約を結べるほどの力を持っている。

・反キリストの出現は、患難期を来たらせるための条件である。

H. The Period of Peace and False Security（平和と偽の安全の時期）

＊患難期の前の第 8 番目の出来事。

＊1 テサ 5：1～3

「兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が『平和だ。安全だ』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません」

＊「主の日」（患難期）の前に、一時的な平和と安全の時期が来る。

＊10 の王国の支配下にあって反キリストが台頭しつつある間のことである。

＊3 節には、産みの苦しみのモチーフが出ている。

I. The Seven Year Covenant（7 年の契約）

＊第 9 の出来事は、反キリストとイスラエルの間で結ばれる 7 年の契約である。

・ダニ 9：27、イザ 28：14～22

＊携挙は、患難期の始まりではない。

＊ダニ 9：27

「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる」

・これは、ダニエルの 70 週の預言の一部である。

＊24 節

・70 週が定められている。

・69 週（483 年）の間に、エルサレムは再建される。

＊25 節

・イスラエルの民は苦難を経験する。

・69 週と 70 週の間に、時間のギャップが生じる。

＊ギャップの間に起こる 3 つの出来事

①メシアは殺される。

・A.D.30 年に成就した。

②エルサレムと神殿が破壊される。

・A.D.70 年に成就した。

③荒廃が続く。

・A.D.70 年以降、イスラエル建国（1948 年）まで。

＊27 節

・70 週目（最後の 7 年間）は、患難期である。

・患難期は、反キリストとイスラエルの契約をもって始まる。

・信者は、反キリストのことをすでに知っている。

＊黙 6：1〜2

「また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを私は聞いた。私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った」

・白い馬に乗っている者は、反キリストである。

・反キリストは、イスラエルとの契約を用いて世界征服に向かって動く。

・患難期の中間で、彼は 10 人の王の中の 3 人を殺す。

・残りの 7 人の王は、反キリストの権威に服す。

Summary（まとめ）

＊患難期の前に、時間の順に起こることが 9 つあった。

＊時間の順に並べられない出来事もある。

II．NON SEQUENTIAL PRETRIBULATIONAL EVENTS（時間順でない出来事）

＊実際に起こるまで、どの段階で起こるか不明のことがある。
＊携挙もそのひとつである。

A.　Blackout I（暗黒 I ）

＊教会時代の終わりから患難期の終わりまでに、5 回の暗黒が出現する。
・太陽、月、星の光が遮断され、地上が闇に覆われる。
・エジプトに起こった現象と似ている。出 10：21～23
・十字架刑の時にも起こった。マタ 27：45
・患難期の前に最初の暗黒が襲う。

＊ヨエ 2：31
「【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる」

B.　The Return of Elijah（エリヤの帰還）

＊マラ 4：5～6
「見よ。わたしは、【主】の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ」

＊5 節　「【主】の大いなる恐ろしい日」の前に、エリヤが登場する。
＊6 節　エリヤの奉仕は、家族の和解である。メシアの再臨の準備である。

＊再臨の前にエリヤの到来が預言されている。
＊メシアの初臨の前に先駆者の到来は預言されていた。
・マラ 3：1、イザ 40：3～5
・バプテスマのヨハネがその成就。マタ 3：1～6、11：7～10、ヨハ 1：23

＊ヨハ 1：19～23
「ヨハネの証言は、こうである。ユダヤ人たちが祭司とレビ人をエルサレムからヨハネのもとに遣わして、『あなたはどなたですか』と尋ねさせた。彼は告白して否まず、『私はキリストではありません』と言明した。また、彼らは聞いた。『では、いったい何ですか。あなたはエリヤですか。』彼は言った。『そうではありません。』『あな

たはあの預言者ですか。』彼は答えた。『違います。』そこで、彼らは言った。『あなたはだれですか。私たちを遣わした人々に返事をしたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。』彼は言った。『私は、預言者イザヤが言ったように「主の道をまっすぐにせよ」と荒野で叫んでいる者の声です』」

＊ヨハネは、自分はエリヤではなく、イザヤの預言の成就であると言った。

＊マタ 17：9〜13

「彼らが山を降りるとき、イエスは彼らに、『人の子が死人の中からよみがえるときまでは、いま見た幻をだれにも話してはならない』と命じられた。そこで、弟子たちは、イエスに尋ねて言った。『すると、律法学者たちが、まずエリヤが来るはずだと言っているのは、どうしてでしょうか。』イエスは答えて言われた。『エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず、彼に対して好き勝手なことをしたのです。人の子もまた、彼らから同じように苦しめられようとしています。』そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと気づいた」

＊エリヤは、すべてのことを立て直すためにやがて来る。マラ 4：6 参照。

＊これはメシアの再臨に関する預言である。

＊弟子たちは、初臨と再臨の区別ができていなかった。

＊マコ 9：9〜13 は、エリヤが初臨の前に来ていたなら、メシア受難の預言は成就しなかったと説明している。

＊マタ 11：11〜14

「まことに、あなたがたに告げます。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。しかも、天の御国の一番小さい者でも、彼より偉大です。バプテスマのヨハネの日以来今日まで、天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。ヨハネに至るまで、すべての預言者たちと律法とが預言をしたのです。あなたがたが進んで受け入れるなら、実はこの人こそ、きたるべきエリヤなのです」

＊イエスは御国の福音を宣べ伝えておられた。

＊もし民が受け入れていたなら、ヨハネはエリヤの役割を果たしたことになる。

＊ルカ 1：13〜17

「御使いは彼に言った。『こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ

母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです』」

＊ヨハネは、「エリヤの霊と力で」メシアの先駆者としての働きをする。

＊ヨハネは、エリヤの型である。

C. The Third Temple（第 3 神殿）

＊4 つの箇所で預言されている。

①ダニ 9：27

「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる」

②マタ 24：15

「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように）」

③2 テサ 2：3～4

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します」

④黙 11：1～2

「それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。『立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる』」

＊以上の箇所から、患難期の中間には、神殿が機能していることが分かる。

＊神殿は、患難期の前か、患難期の前半の 3 年半の間に建てられる。

＊モーセの律法が命じるいけにえが捧げられるが、神はそれを認めておられない。

＊イザ 66：1～6

「【主】はこう仰せられる。『天はわたしの王座、地はわたしの足台。わたしのために、あなたがたの建てる家は、いったいどこにあるのか。わたしのいこいの場は、いったいどこにあるのか。これらすべては、わたしの手が造ったもの、これらすべてはわたしのものだ。――【主】の御告げ――わたしが目を留める者は、へりくだって

心砕かれ、わたしのことばにおののく者だ。牛をほふる者は、人を打ち殺す者。羊をいけにえにする者は、犬をくびり殺す者。穀物のささげ物をささげる者は、豚の血をささげる者。乳香をささげる者は、偶像をほめたたえる者。実に彼らは自分かってな道を選び、その心は忌むべき物を喜ぶ。わたしも、彼らを虐待することを選び、彼らに恐怖をもたらす。わたしが呼んでもだれも答えず、わたしが語りかけても聞かず、わたしの目の前に悪を行い、わたしの喜ばない事を彼らが選んだからだ。』主のことばにおののく者たちよ。【主】のことばを聞け。『あなたがたを憎み、わたしの名のためにあなたがたを押しのける、あなたがたの同胞は言った。「【主】に栄光を現させよ。そうすれば、あなたがたの楽しみを見てやろう。」しかし、彼らは恥を見る。』聞け。町からの騒ぎ、宮からの声、敵に報復しておられる【主】の御声を」

＊神が認定しないこの神殿は、患難期の神殿である。
＊1 節　神はこの神殿には住まない。
＊2 節　神が求めるのは、神殿ではなく、信仰である。
＊3 節　彼らが捧げるいけにえは、受け入れない。
＊4 節　この神殿を建てること自体が、神のことばを聞いていない証拠である。
＊5 節　信仰のあるユダヤ人への励ましの言葉が語られる。
＊6 節　この神殿は裁きを受けて終わる。

＊六日戦争（1967 年）以降、この可能性が出てきた。
＊ユダヤ人たちは、A.D.70 年以降、自分がどの部族出身か分からなくなった。
＊レビ族だけは例外である。
・Levi、Levy、Levin、Levine、Leventhal、Cohen など。

＊岩のドームがどうなるかという問題がある。
＊神殿の家具や器具を回復しているグループが出現している。
＊祭司の訓練をしているグループも出現している。

教会の携挙
THE RAPTURE OF THE CHURCH

Ⅰ. DEFINITION: THE CHURCH（教会の定義）

A. What is the Church?（教会とは何か）

＊普遍的（不可視）教会とは何かを、以下 5 つの聖書箇所から探る。

＊これが、携挙の学びに役立つ。

1. コロ 1：18

「また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです」

＊教会はキリストのからだである。

2. エペ 2：11～16

「ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました」

＊教会は、イエスへの信仰によって結ばれたユダヤ人と異邦人の共同体である。

＊ユダヤ人の教会、異邦人の教会、というものは存在しない。

＊キリストの死までは、ユダヤ人と異邦人の区別しかなかった。

＊今は、第 3 の区分である教会が存在する。
＊しかし、ユダヤ人も異邦人も、人種的アイデンティティは保持する。
＊異邦人は、「福音により、キリスト・イエスにあって、共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者」（エペ 3：6）となった。
＊教会時代の主な目的は、異邦人の中から救われる人を召し出すことである。
「神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです」（使 15：14）
＊異邦人を召し出すことは、救われる異邦人の数が満まで続く。
「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である』」（ロマ 11：25～27）

・異邦人の救いの目的のひとつは、ユダヤ人にねたみを起こさせ、教会時代に多くのユダヤ人が救われるようになることである（ロマ 11：11～15）。
・異邦人信者は、ユダヤ人のオリーブの木に接ぎ木された（ロマ 11：17～24）。
・「救いはユダヤ人から出る」（ヨハ 4：22）
・ユダヤ人は、栽培種のオリーブの枝である。
・教会は、栽培種のオリーブの枝（ユダヤ人）と野生種のオリーブの枝（異邦人）が、メシアを信じる信仰によってひとつとなった共同体である。

3. 1 コリ 12：13

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです」

＊教会の一員になる方法は、聖霊のバプテスマである。
＊信じて救われた瞬間に、これが起こる。

B. When Did the Church Begin?（教会はいつ始まったか）

4. 使 1：5

「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです」

＊未来形が使われているので、聖霊のバプテスマは将来起こることである。
＊教会という言葉が初めて登場するのは、マタ 16：18 である。

＊「わたしの教会を建てます」も未来形である。
＊教会は、旧約時代にも、福音書の時代にも、存在していなかった。

5.　使 11：15～16

「そこで私が話し始めていると、聖霊が、あの最初のとき私たちにお下りになったと同じように、彼らの上にもお下りになったのです。私はそのとき、主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によってバプテスマを授けられる』と言われたみことばを思い起こしました」

＊教会は、使 2 章で誕生した。
＊「最初のとき」（15 節）とは、ペンテコステの日である。
＊この日に、使 1：5 の預言が成就した。
＊教会誕生のための前提条件
　・復活（エペ 1：19～20）、召天、御霊の賜物の付与（エペ 4：7～12）
＊教会は、ペンテコステから携挙までの間に救われた真の信仰者すべてから成っている。
＊旧約時代の聖徒と、患難期の聖徒は、携挙から除外されている。
＊「キリストにある」信者だけが携挙に与る。

II．THE RAPTURE OF THE CHURCH（教会の携挙）

A.　The Events of the Rapture（携挙の出来事）

1.　John 14:1-3（ヨハ 14：1～3）

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです」

＊携挙の時期や背景については、何も語っていない。
＊しかし、聖徒たちを天に迎えるためにイエスが戻ってくるという約束がある。
＊患難期後携挙説（Posttribulationsim）では、これは説明できない。
＊患難期前携挙説（Pretribulationism）とイエスのこの約束とは調和する。

2.　I Thessalonians 4:13-18（1 テサ 4：13～18）

＊1 テサ 4：13～15
「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神

はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずです。私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません」

＊テサロニケの信者は、携挙があることを知っていた。
＊彼らは、生者の携挙は知っていたが、死者がどうなるか知らなかった。
＊「すでに死んだ者は携挙の祝福から漏れたのか」ということが疑問であった。
＊パウロは、死者がどうなるかは教えていなかった。

＊パウロは、信者の死の状態を「眠る」と表現している。
＊これは、信者にのみ適用される言葉である。
＊肉体の活動の停止であって、霊魂の活動の停止ではない。

＊1 テサ 4：16〜18
「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい」

＊携挙の 7 つのステップについて解説されている。
①「主ご自身、天から下って来られる」
②「号令と」
・軍の総司令官が発する命令の声である。
・その命令で、死者の復活と生者の天への引き上げが起こる。
③「御使いのかしらの声と」
・天使長ミカエルが用いられる。
・総司令官が命令を出し、副官がそれを復唱するということであろう。
・イエスが命令を出し、天使長の復唱によって計画が動き始める。
④「神のラッパの響きのうちに」
・ラッパの音は、戦争や礼拝に民を招集するためのものである。
・ラッパの響きが、携挙が起こるための引き金となる。
⑤「キリストにある死者が、まず初めによみがえり」
・死んだ聖徒が携挙から漏れることはない。
・「キリストにある」とは、聖霊のバプテスマによって教会の一員となった者。
・旧約時代の聖徒たちの復活は、先になってから起こることである。
⑥「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ」

・生きている聖徒たちが、例外なしに天に引き上げられる。
・「harpazo」という動詞。ラテン語「rapturo」、英語「rapture」。

⑦「空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります」

・復活した聖徒たちと引き上げられた聖徒たちが、いっしょに空中で主と会う。
・ヨハ 14：1〜3 の成就
・携挙のタイミングについては何も教えていない。

3. I Corinthians 15:50-58（1 コリ 15：50〜58）

＊50 節

「兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません」

＊携挙された者も、復活した者も、ともにからだの変化が必要となる。

＊この背景に創 2：17 がある。

「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ」

＊創 3：17〜19 に、このテーマの展開がある。

「また、人に仰せられた。『あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない』」

＊罪のゆえに、人は堕落し、死すべき者となった。

＊ロマ 5：12〜14

「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、――それというのも全人類が罪を犯したからです。というのは、律法が与えられるまでの時期にも罪は世にあったからです。しかし罪は、何かの律法がなければ、認められないものです。ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。アダムはきたるべき方のひな型です」

＊すべての人は、アダムの罪に参加したために有罪とみなされている（罪の転嫁）。
＊人の内には罪の性質があり、その罪の結果が肉体の死である。
＊このような肉体（罪、死ぬべき運命、死、堕落の支配）のままでは、永遠の世界に入

ることはできない。

＊51～53 節

「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです」

＊強調点は、「たちまち」ということにある。

＊ギリシア語の「アトモス」。そこから英語の「atom」という言葉が派生した。

＊「一瞬のうちに」（the twinkling of an eye）とは、瞬間的な認識のことである。

＊このことは、「終わりのラッパ」（1 テサ 4：16 参照）が鳴る時に起こる。

＊患難期中、患難期後、ともにこれを黙示録の第 7 のラッパと解釈する。

＊しかし、パウロがこの手紙を書いた時にはまだ黙示録は書かれていない。

＊このラッパは、ラッパの祭りで吹かれるものである。

＊この祭りでは、ラッパは短い音で吹かれ、最後に長い音で終わる。

・「テキアー・ゲドラー」と呼ばれている。

＊このラッパは、携挙の時期について何も語っていない。

＊ただ、携挙がラッパの祭りの成就であることを示している。

＊「神のラッパ」（1 テサ 4：16）が鳴ると、死者は復活し、生者は変えられる。

＊堕落の問題は、死者の復活と、生者の変化によって解決される（53 節）

＊栄化されたからだに関する啓示は、1 コリ 15：35～49 にある。

＊42～49 節と 53 節

「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。聖書に『最初の人アダムは生きた者となった』と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。 第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です。土で造られた者はみな、この土で造られた者に似ており、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです。私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです」

「朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです」

①朽ちないからだ（42 節）
②栄光のからだ（43 節 a）
③復活の力によるからだ（43 節 b）
④御霊のからだ（44～46 節）
⑤天上のからだ（47～49 節）
⑥朽ちないからだ（53 節）

＊メシアの復活のからだと人間の復活のからだの対比
・参考にはなるが、メシアの神性を考慮に入れて考えなければならない。
・メシアの声は同じであった（ヨハ 20：16）。
・姿は、すぐにではないにしても、認識された（ヨハ 20：26～29、21：7）。
・抱擁可能な、肉と骨を持ったからだであった（ヨハ 20：17、27）。
・突如消えることができた（ルカ 24：31）。
・壁を通過することができた（ヨハ 20：19）。
・食物を食べることができた（ルカ 24：41～43）。

＊54～58 節
「しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、『死は勝利にのまれた』としるされている、みことばが実現します。『死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。』死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから」
＊朽ちるものから朽ちないものへ、死から不死へ、これが死への勝利をもたらす。

B. The Timing of the Rapture（携挙の時期）

1. An Observation（観察）

＊携挙は、患難期の前に起こる。

2. Scripture（聖句）

（1）患難期に言及した聖書箇所には、教会が出てこない。
＊聖徒は登場するが、それは教会が存在することの証拠とはならない。
＊黙 1～3 章（患難期前の出来事）　教会が存在している。
＊黙 19～22 章（患難期後の出来事）　教会が存在している。
＊黙 6～18 章（患難期の描写）　教会への言及はない。

＊黙示録以外でも、患難期の箇所では教会は登場しない。

(2) ルカ 21：34〜37

「『あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気をつけていなさい。その日は、全地の表に住むすべての人に臨むからです。しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。』さてイエスは、昼は宮で教え、夜はいつも外に出てオリーブという山で過ごされた」

＊その日は、「全地の表に住むすべての人に臨む」とある（35 節）。

・神の裁きを免れる人はひとりもいない。

＊しかし、36 節では、逃れる方法があると教えられている。

・信者として、「人の子の前に立つ」のがそれである。

・これは携挙を表している。ヨハ 14：1〜3、1 テサ 4：13〜18

(3) 1 テサ 1：9〜10

「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、また、神が死者の中からよみがえらせなさった御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです」

＊「やがて来る御怒り」からの救い

＊「御怒り」の 2 つの意味

・罪に対する一般的な怒り（ロマ 1：18）

・患難期における神の怒り（黙 6：17、14：10、19、15：1、7、16：1）

＊教会がそこから救い出される御怒りとは、患難期の御怒りである。

・信者は、罪に対する神の怒りからの解放を保障されている（ロマ 5：9）。

・さらに、患難期の怒りからも解放も保障されている（1 テサ 1：10）。

(4) 1 テサ 5：1〜10

「兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が『平和だ。安全だ』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていましょう。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶとと

してかぶって、慎み深くしていましょう。神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです」

＊9節　「神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、」

・「御怒り」とは、「主の日」（2節）のことである。患難期のこと。

＊直前の4：13〜18は、携挙に言及した箇所であった。

＊テサロニケの教会の信者たちは、主の日を通過する必要はないということ。

＊5：1の「ペリ　デ」という言葉（英語の「but」である）

・話題を切り替える際に使用する言葉

・1テサ4：13〜18　携挙がテーマ

・5：1で「ペリ　デ」を使用する。新しいテーマは「主の日」（2節）である。

・「御怒り」の時期である（9節）。

・「救いを得るように」定められている（9節）。

・「救いの望み」（8節）とは、将来起こる救いへの望みである。

・この救いは、携挙の時に起こるからだの贖いのことである。

・5：4〜8は、教会は主の日を恐れる必要がないと教えている。

・主の日は、暗やみが特徴となる。ゼパ1：14〜18、ヨエ2：1〜2、10〜11

・信者は、「昼の子」である。

（5）黙3：10

「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう」

＊「試練の時」とは、患難期のことである（黙6〜19章）。

＊教会は、患難から守られる。

＊患難期に地上にあって守られるというなら、多くの聖徒の死を説明できない。

・黙6：9〜11、11：7、12：11、13：7、15、14：13、17：6、18：24

・教会時代の聖徒と患難期の聖徒を区別して理解する必要がある。

＊もう一つの質問。患難期のどれくらい前に携挙は起こるのか。

・以下の4つの聖句は、携挙はすぐにでも起こり得ると教えている。

（1）ヨハ21：20〜23

「ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、『主よ。あなたを裏切る者はだれですか』と言った者である。ペテロは彼を見て、イエスに言った。『主よ。この人はどうですか。』イエスはペテロに言われた。『わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。』そこ

で、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのでなく、『わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか』と言われたのである」

＊メシアは、ヨハネが生きている間に戻ってこられる可能性があった。

(2) ロマ 13：11～12

「あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか」

＊からだの贖いが、目前に迫っていることとして認識されている。

＊ここでの「救い」とは、終末論的なものである。

＊日々、携挙の時に近づいているので、光の子らしく歩むべきである。

(3) ヤコ 5：7～9

「こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。兄弟たち。互いにつぶやき合ってはいけません。さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます」

＊主の来臨は近い。

＊さばきの主が、「戸口のところに」立っておられる。

(4) 黙 22：20

「これらのことをあかしする方がこう言われる。『しかり。わたしはすぐに来る。』アーメン。主イエスよ、来てください」

＊この聖句もまた、携挙はすぐに起こり得ると教えている。

＊患難期中と患難期後では、「すぐに起こり得る」とは言えない。

＊携挙の時期に関するまとめ

①携挙は、患難期の前にやって来る。

・患難期は、7 年の契約締結によって始まる。

・携挙のタイミングの最も遅い可能性は、この契約締結時である。

②携挙は、すぐに起こり得る。英語で「imminent」という。

・その前に起こらなければならない前提となる出来事がないという意味である。

＊つまり、携挙は今の時点と契約締結時点の間の、ある時点で起こるということ。

Ⅲ. THE JUDGMENT SEAT OF CHRIST（キリストの御座の裁き）

＊これは、信者の褒章のための裁きであって、罪の裁きではない。
＊ルカ 21：34〜36 は、携挙の結果、信者は「人の子の前に立つ」と教えている。

A. The Principle - Romans 14:10（原則 - ロマ 14：10）

「それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。次のように書かれているからです。『主は言われる。わたしは生きている。すべてのひざは、わたしの前にひざまずき、すべての舌は、神をほめたたえる。』こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります」（ロマ 14：10〜12）

B. Basis - II Corinthians 5:10（基準 - 2 コリ 5：10）

「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです」

＊裁きの基準は、信者になって以降の行為である。
＊罪の裁きではない。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません」（ロマ 8：1）

C. The Results - I Corinthians 3:10-15（結果 - 1 コリ 3：10〜15）

「与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります」

＊土台（イエス・キリスト）の上にどのような建物を建てたかが裁きの基準となる。
＊12 節　働きの量ではなく、質が問題となる。

「金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、」

＊神の御心に沿った働きは、金、銀、宝石である。
＊告白されていない罪をもった生活は、木、草、わらである。

＊罪の影響は、間接的に表れる。千年王国の間、その影響が続く。

＊13 節　火で試される。

「各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです」

＊木、草、わらなどは燃えて灰になる。

＊金、銀、宝石は精錬され、より純化される。

＊14～15 節　裁きの結果

「もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります」

＊報いを受ける人と、焼かれる人の対比

＊「損害を受ける」とは、その働きが燃やされてしまうこと。

＊しかし、その人が救いを失うことはない。

・「自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります」

＊報償に関する教え

・「ダイアデム」（王の冠）

・「ステファノス」（勝利者の冠）

・5 つの聖句を取り上げる。

①1 コリ 9：24～25

「競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです」

・自制し、霊的生活で勝利した者への冠

②1 テサ 2：19

「私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか」

・メシアのために魂を勝ち取った者への冠

・伝道し、救われる人が起こされた者への冠

③2 テモ 4：7～8

「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、

義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです」

・困難な状況下にあって、教理的にも道徳的にも信仰を守った者への冠
・主の現れを慕っている者への冠
・再臨を待ち望む姿勢が、正しい教理と真実な信仰につながる。

④ヤコ 1：12 と黙 2：10

「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです」

・試練を耐え抜いた者への冠

「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう」

⑤1 ペテ 5：2～4

「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠を受けるのです」

・忠実に神の羊の群れを牧した者への冠
・牧師、長老、その他、みことばの乳と肉で羊を養った者への冠

＊これ以外にも、冠はあるかもしれないが、以上が啓示された種類である。
＊報償の目的は、千年王国での権威の度合いを決めることにある。ルカ 19：11～27
＊永遠の秩序においては、すべての人が平等である。

Ⅳ. THE MARRIAGE OF THE LAMB（小羊の婚宴）

A. The Jewish Marriage System（ユダヤ的婚礼法）

①花婿の父が結婚をアレンジし、花嫁料を払った。

＊子どもたちが幼いころにアレンジすることもある。
＊あるいは、結婚の約 1 年前に行うこともある。
＊花婿と花嫁は、結婚まで顔を合わせないことが多い。

②上記①から 1 年以上の年数が経った時点で、花婿が花嫁を迎えに行く。

＊花婿の父が、そのタイミングを決める。

＊花婿は、迎えに行く前に花嫁のために場所を備えている。

③婚礼の儀式

＊招かれるのは少数である。

＊花嫁は清めの儀式を行っている。

④婚宴

＊長いと 7 日間も続く。

＊より多くの人が招かれる。

B. The Marriage of Christ and the Church（キリストと教会の結婚）

①父なる神が子なる神のためにアレンジし、花嫁料を払った。

＊花嫁料は、メシアの血である。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」（エペ 5：25〜27）

②次のステップまでに、長い時間が経過することがある。

＊この場合は、約 2 千年が経過した。

＊しかし、1 テサ 4：13〜18 によれば、第②のステップは必ず来る。

＊携挙の時は、父なる神だけが知っておられる（マタ 24：36）。

＊住まいの準備ができたら、携挙が起こる（ヨハ 14：1〜3）。

③天において婚礼の儀式が執り行われる。

＊黙 19：6〜8

「また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである』」

＊キリストの御座の裁きは、終わっている（8 節）。

「光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された」
「その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである」
＊木、草、わらは焼かれた。
＊金、銀、宝石は精錬された。
＊この裁きは、花嫁の儀式的清めを象徴している。

＊黙 19：1～10 は、再臨の前の天での様子を描いている。
＊黙 19：11～21 は、再臨とその後の出来事を描いている。
＊教会は、再臨の前にすでに天にいる。
＊携挙と再臨が同じものとは言えない。
＊黙 19：6～8 は、携挙が再臨の前にあることの証明となっている。

④婚宴は、再臨後に地上で行われる。
＊この婚宴とともに、千年王国が始まる。
＊マタ 22：1～14、25：1～13 のたとえ話は、婚宴に関するものである。
＊この婚宴には、旧約時代の聖徒たちと患難期の聖徒たちが含まれる。
＊彼らは、再臨後に復活する。
＊ダニ 12：2 は、旧約時代の聖徒の復活を描いている。
・ダニ 12：2 は、患難期の出来事の後に起こることである。
・ダニ 11：36 以降ダニエルは、患難期について論じてきた。
＊黙 19：9
「御使いは私に『小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい』と言い、また、『これは神の真実のことばです』と言った」
・招きの結果は、復活と婚宴である。
・婚宴は、少なくとも 7 日間は続く。
・75 日の移行期の締めくくりとなるか。
・あるいは、千年王国の最初の 7 日間となるか。

＊マタ 22：1～14
「イエスは、また、たとえを用いて語られた。『天の御国は、王子のために結婚の披露宴を設けた王にたとえることができます。王は、招待しておいたお客を呼びに、しもべたちを遣わしたが、彼らは来たがらなかった。それで、もう一度、次のように言いつけて、別のしもべたちを遣わした。「お客に招いておいた人たちにこう言いなさい。『さあ、食事の用意ができました。雄牛も太った家畜もほふって、何もかも整いました。どうぞ宴会にお出かけください。』」ところが、彼らは気にもかけず、ある者は畑に、別の者は商売に出て行き、そのほかの者たちは、王のしもべたちをつかまえて恥をかかせ、そして殺してしまった。王は怒って、兵隊を出して、その人

殺しどもを滅ぼし、彼らの町を焼き払った。そのとき、王はしもべたちに言った。「宴会の用意はできているが、招待しておいた人たちは、それにふさわしくなかった。だから、大通りに行って、出会った者をみな宴会に招きなさい。」それで、しもべたちは、通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った者をみな集めたので、宴会場は客でいっぱいになった。ところで、王が客を見ようとして入って来ると、そこに婚礼の礼服を着ていない者がひとりいた。そこで、王は言った。「あなたは、どうして礼服を着ないで、ここに入って来たのですか。」しかし、彼は黙っていた。そこで、王はしもべたちに、「あれの手足を縛って、外の暗やみに放り出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ」と言った。招待される者は多いが、選ばれる者は少ないのです』」

・招待しておいたお客とは、パリサイ人やイエスと同時代のユダヤ人たち。
・彼らは、赦されない罪のゆえにこの婚宴に参加することができない。
・しかし、患難期のユダヤ人たちは、参加する。
・不信者は、「外の暗やみ」に投げ込まれる。

＊マタ 25：1〜13

「そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。賢い娘たちは、自分のともしびといっしょに、入れ物に油を入れて持っていた。花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはとうてい足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼といっしょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま、あけてください』と言った。しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と言った。だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです」

・対比は、2 種類の信者に関するものではなく、信者と未信者に関するもの。
・信者は、油（聖霊の象徴）を持った賢い娘たち。
・不信者は、油を持たない愚かな娘たち。
・愚かな娘たちは、千年王国に入ることができない。
・マタ 25：31〜46 のたとえ話の適用から考えると、賢い娘と愚かな娘は、異邦人の信者と不信者の対比である。

＊イザ 25：6〜8

「万軍の【主】はこの山の上で万民のために、あぶらの多い肉の宴会、良いぶどう酒の宴会、髄の多いあぶらみとよくこされたぶどう酒の宴会を催される。この山の上で、万民の上をおおっている顔おおいと、万国の上にかぶさっているおおいを取り除き、永久に死を滅ぼされる。神である主はすべての顔から涙をぬぐい、ご自分の民へのそしりを全地の上から除かれる。【主】が語られたのだ」

・イザヤもまた、御国の宴会と死からの復活を関連付けている。
・ある意味では、2 重の婚宴がある。
・メシアの花嫁である教会のための婚宴
・再婚した【主】の妻であるイスラエルのための婚宴

＊バプテスマのヨハネの言葉（ヨハ 3：27〜30）

①彼は、自分が花婿であることを否定した。
②さらに彼は、自分が花嫁（あるいはその一部）であることも否定した。

・彼は、自分のことを花婿の友人だと言った。
・彼は、旧約時代の預言者の最後の人物である。
・旧約時代の聖徒と、患難期の聖徒は、花婿の友人である。
・多くの者が婚宴に招かれる。黙 19：9

MEMO

ユダヤ人と患難期
THE JEWS AND THE TRIBULATION

INTRODUCTION - DEUTERONOMY 32:8-9（はじめに - 申 32：8〜9）

「いと高き方が、国々に、相続地を持たせ、人の子らを、振り当てられたとき、イスラエルの子らの数にしたがって、国々の民の境を決められた。【主】の割り当て分はご自分の民であるから、ヤコブは主の相続地である」

＊神の預言的プログラムは 3 つに分割される。

①神の教会に対する計画

②神の異邦人諸国に対する計画

③神のイスラエルに対する計画

＊以上の 3 つの計画は、イスラエルを中心に回っていく。

＊国々の地境は、その地に住むイスラエル人の数によって振り当てられた。

「【主】の割り当て分はご自分の民であるから、ヤコブは主の相続地である」

＊8 節で、「いと高き方」という御名が出て来る。

＊この御名は、神が天と地の所有者であることを示している（創 14 章）。

＊所有者である神は、思い通りに地を分割することができる。

＊患難期は全世界を襲うが、特にイスラエルに対する計画と深く関係している。

Ⅰ．THE JEWS AND THE PURPOSE OF THE TRIBULATION（ユダヤ人と患難期の目的）

＊3 つの目的がある。

＊最初の目的はユダヤ人にも異邦人にも関係がある。

＊第 2 と第 3 の目的は、特に神のイスラエルに対する計画に関係している。

A. To Make an End of Wickedness and Wicked Ones（悪と悪人を取り除くため）

1. Isaiah 13:9（イザ 13：9）

「見よ。【主】の日が来る。残酷な日だ。憤りと燃える怒りをもって、地を荒れすたらせ、罪人たちをそこから根絶やしにする」

＊「【主】の日」とは、患難期のことである。

＊目的は、「罪人たちをそこから根絶やしにする」ことである。

2. Isaiah 24:19-20（イザ 24：19〜20）

「地は裂けに裂け、地はゆるぎにゆるぎ、地はよろめきによろめく。地は酔いどれのように、ふらふら、ふらつき、仮小屋のように揺り動かされる。そのそむきの罪が地の上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない」

＊目的は、地上から罪を取り除くことである。

B. To Cause a Great World-wide Revival（世界大のリバイバルを来たらせるため）

1. Matthew 24:14 - The Purpose（マタ 24：14 - 目的）

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます」

＊患難期が終わる前に、再臨が起こる前に、福音は全世界に宣べ伝えられる。

＊黙 7 章は、マタ 24：14 の解説となっている。

2. Revelation 7:1-8 - The Means（黙 7：1〜8 - 方法）

「この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。また私は見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、大声で叫んで言った。『私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。』それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、ガドの部族で一万二千人、アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で一万二千人、マナセの部族で一万二千人、シメオンの部族で一万二千人、レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、ゼブルンの部族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千人、印を押された者がいた」

＊「この後」とは時間の順ではなく、ヨハネが次に見た幻のことである。

＊1〜3 節　4 人の天使が裁きの執行を控えている。

- 神のしもべたちの数が満ちるのを待っている。
- 額に押された印は、奉仕と守りの保障である。
- 144,000 人のユダヤ人は、世界各地から来る。「地の四方の風」とある。

＊4〜8 節　144,000 人のユダヤ人が動員される。

・患難期の前半の 3 年半で伝道が行われる。
・ユダヤ人が最適である。
・異邦人の場合、宣教師を訓練するために時間がかかりすぎる。
・ユダヤ人は、世界に離散しており、その地の言葉を話す。
・一般的にユダヤ人は旧約聖書の知識がある（米国のユダヤ人の多くは例外）。
・教会が携挙された後、神は 12 の部族の中から 144,000 人を救う。
・彼らはその地の言葉を知っており、旧約聖書も知っている。
・新約聖書を短時間の内に学び、宣教を開始することができる。

3. Revelation 7:9-17 - The Results（黙 7：9〜17 - 結果）

「その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。彼らは、大声で叫んで言った。『救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。』御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、言った。『アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。』長老のひとりが私に話しかけて、『白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか』と言った。そこで、私は、『主よ。あなたこそ、ご存じです』と言った。すると、彼は私にこう言った。『彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。だから彼らは神の御座の前にいて、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです』」

＊次にヨハネが見たのは、異邦人の大群衆で、ユダヤ人も含まれていた。
＊彼らは、患難期に救われた人たちである。
＊「その後」（After these things）は、因果関係を示す言葉である。
＊黙 7 章の前半が原因で、後半が結果である。

C. To Break in Pieces the Will of the Holy People（聖なる民の心を粉砕するため）

＊ダニ 11 章で、患難期の間のイスラエルの状態が預言される。
＊この幻は、12 章 4 節で終わる。
＊12：5〜7 で、ダニエルはそれがどれくらい続くかと質問する。

1. Daniel 12:5-7 - The Purpose（ダニ 12：5〜7 - 目的）

「私、ダニエルが見ていると、見よ、ふたりの人が立っていて、ひとりは川のこちら岸に、ほかのひとりは川の向こう岸にいた。それで私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人に言った。『この不思議なことは、いつになって終わるのですか。』すると私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人が語るのを聞いた。彼は、その右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方をさして誓って言った。『それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民の勢力を打ち砕くことが終わったとき、これらすべてのことが成就する』」

＊聖なる民の勢力（自己義認の心）が打ち砕かれるまで、患難期は続く。

＊患難期の第 3 の目的は、イスラエルの民の回心である。

2. Ezekiel 20:34-38 - The Means（エゼ 20：34〜38 - 方法）

「わたしは、力強い手と伸ばした腕、注ぎ出る憤りをもって、あなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。わたしはあなたがたを国々の民の荒野に連れて行き、そこで、顔と顔とを合わせて、あなたがたをさばく。わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地の荒野でさばいたように、あなたがたをさばく。――神である主の御告げ――わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたと契約を結び、あなたがたのうちから、わたしにそむく反逆者を、えり分ける。わたしは彼らをその寄留している地から連れ出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。このとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知ろう」

＊出エジプトの出来事との対比がある。

- 神はイスラエルの民をエジプトから救出し、荒野に導かれた。
- 荒野での訓練。律法の付与と幕屋の建設。
- カデシュ・バルネアでの裁き。
- 40 年後、新しい世代の者だけが約束の地に入れた。
- ヨシュアとカレブは例外。

＊出エジプトの出来事と同じようなことが将来起こる。

- 神は、世界中からユダヤ人たちを呼び集める。現代のイスラエル国家。
- ある時点で、神はご自身の民を裁かれる。
- 患難期の裁きによって反抗する者と信じる者とが区別される。
- 新しい民、新生した民が誕生する。
- 彼らだけが、王であるメシアのもと、千年王国に入る。

II．THE JEWS AND THE BEGINNING OF THE TRIBULATION（ユダヤ人と患難期の始まり）

A. Daniel 9:24-27（ダニ 9：24〜27）

「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所

に油をそそぐためである。それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる」

＊9 章 1～23 節は、70 週の預言へのイントロダクションである。

＊1～2 節　背景

・ダニエルは、エレミヤ書や他の預言書を学んでいた。

・バビロン捕囚は 70 年で終わることを知った。

・御国成就の条件は、イスラエルの民による罪の告白である。

・バビロン捕囚に続いて、すぐに御国が到来すると誤解していた。

＊3～19 節　イスラエルの罪の告白

＊20～23 節　ガブリエルが来て、ダニエルの誤解を解く。

・御国の到来までに、70 年ではなく 490 年（70 週）かかる。

＊9 章 24～27 節で、70 週の幻が与えられる。

・最初の 483 年（69 週）は、すでに歴史上成就した。

・メシアの初臨とともにそれが終わった。

・しかし、最後の 7 年が残っている。

・この 7 年（70 週目）が患難期である。

＊患難期はどの時点から始まるのか。ダニ 9：27 に答えがある。

「彼は一週の間、多くの者と同盟を固め、半週でいけにえと献げ物を廃止する。憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す。そしてついに、定められた破滅が荒廃の上に注がれる」（新共同訳）

・「彼」（27 節）とは、「来るべき君主」（26 節）のことである。

・この人物が反キリストであり、イスラエルと 7 年の契約を結ぶのである。

・この契約締結が、患難期の始まりとなる。

①「彼は一週の間、多くの者と同盟を固め」（新共同訳）

・契約は全員ではなく、多くの者と結ぶ。

・指導者たちはその中に含まれるが、それを拒否するユダヤ人たちがいる。

②「半週でいけにえと献げ物を廃止する」（新共同訳）

・3 年半で契約は破棄される。

・黙 11：1～2 と同じ。

③「憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す」（新共同訳）

・「憎むべきもの」（ヘブル語でシクッツ）とは、偶像のことである。
・反キリストの像が神殿に立てられる。
・ダニ 12：11、マタ 24：15 参照
・黙 13：14〜15 に、「獣の像」が登場する。
・反キリストがユダヤ人の上に荒廃をもたらす。

④「そしてついに、定められた破滅が荒廃の上に注がれる」（新共同訳）

・「ついに」（even unto the full end）とは、完了を示す言葉である。
・「定められた」とは、その前に啓示があるということ。
・イザ 10：23、28：22 など参照。
・また、患難期の長さは決まっているということ。
・マタ 24：22 参照
・「荒廃」がユダヤ人のことなら、患難期のユダヤ人の状態の説明となる。
・「荒廃」が反キリストのことなら、再臨の時の滅亡を指すことになる。

＊ダニ 9：27 は、7 年間の契約を人間的視点から見たものである。
＊イザ 28：14〜22 は、神の視点を提供している。

B. Isaiah 28:14-22（イザ 28：14〜22）

＊14 節

「それゆえ、あざける者たち――エルサレムにいてこの民を物笑いの種にする者たちよ。【主】のことばを聞け」

・イスラエルの指導者たちは、「あざける者たち」である。

＊15 節

「あなたがたは、こう言ったからだ。『私たちは死と契約を結び、よみと同盟を結んでいる。たとい、にわか水があふれ、越えて来ても、それは私たちには届かない。私たちは、まやかしを避け所とし、偽りに身を隠してきたのだから』」

・洪水は軍事的侵略の象徴である。
・指導者たちは、この契約によって侵略の危険から守られると考えた。
・この契約は、神の視点からは「死との契約」「よみとの同盟」である。
・イスラエルが反キリストをメシアとして受け入れたということではない。
・安全を保障してくれる人物として信頼したということである。

＊16 節

「だから、神である主は、こう仰せられる。『見よ。わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは、試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊いかしら石。これを

信じる者は、あわてることがない』」

・契約に同意しない少数派のユダヤ人たちがいる。

＊17～22 節ではダニ 9：27 と同じ 3 つの結果が見出される。

①17～18 節

「わたしは公正を、測りなわとし、正義を、おもりとする。雹は、まやかしの避け所を一掃し、水は隠れ家を押し流す。あなたがたの死との契約は解消され、よみとの同盟は成り立たない。にわか水があふれ、越えて来ると、あなたがたはそれに踏みにじられる」

・18 節　患難期の中間で契約は破棄され、軍事的侵略が起こる。

②19～20 節

「『それは押し寄せるたびに、あなたがたを捕らえる。それは朝ごとに押し寄せる。昼も夜も。この啓示を悟らせることは全く恐ろしい。』寝床は、身を伸ばすには短すぎ、毛布も、身をくるむには狭すぎるようになる」

・短い寝床のたとえ

・狭い毛布のたとえ

・安全ではなく危険が、快適さではなく不快さがある。

③21～22 節

「実に、【主】はペラツィムの山でのように起き上がり、ギブオンの谷でのように奮い立ち、そのみわざを行われる。そのみわざは異なっている。また、その働きをされる。その働きは比類がない。だから今、あなたがたはあざけり続けるな。あなたがたを縛るかせが、きつくされるといけないから。私は万軍の神、主から、全世界に下る決定的な全滅について聞いているのだ」

・「その御業は未知のもの」（新共同訳）（strange work）

・「働き」（新共同訳）（strange act）

・地上でこの契約が結ばれた時、天では、全世界に下る裁きが予告された。

・この裁きは、黙 5 章の 7 つの封印された巻物に記録されている。

・患難期の終わりには、地の 3 分の 2 から 4 分の 3 が破壊されている。

・人口も同じ程度に減少している。

Ⅲ. THE JEWS IN THE TRIBULATION（患難期におけるユダヤ人）

＊このテーマに関する旧約預言は種々あるが、ここでは 4 箇所だけを取り上げる。

A.　Jeremiah 30:4-7（エレ 30：4～7）

「【主】がイスラエルとユダについて語られたことばは次のとおりである。まことに【主】はこう仰せられる。『おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があって平安はない。男が子を産めるか、さあ、尋ねてみよ。わたしが見るのに、なぜ、男がみな、産婦のように腰に手を当てているのか。なぜ、みなの顔が青く変わっているのか。ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる』」

＊「ヤコブの苦難の時」

＊人類全般が苦しむが、特にイスラエルの苦しみは大きい。

＊出 4：22　神の初子

＊イザ 40：1〜2

「そのすべての罪に引き替え、二倍のものを【主】の手から受けた」

＊以下の 3 箇所は、その苦しみを描写している。

B.　Matthew 24:15-22（マタ 24：15〜22）

「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます」

＊患難期の後半の始まりを示す具体的なしるし（15 節）

「『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つ」

・反キリストが至聖所に座り、自らを真の神と宣言する（2 テサ 2：3〜10）。

・偽預言者が反キリストの像を至聖所に置く（黙 12：13〜17、ダニ 12：11）。

＊「荒らす憎むべき者」を見たなら、できるだけ早く国を出る（16〜20 節）。

・黙 12：13〜17

・強調点は、即座に逃げよという点にある。

＊冬や安息日にならないように祈る（20 節）。

・冬は雨季である。ワジを通過するのは困難。

・安息日には、移動手段がなくなる。

＊世界中に反ユダヤ主義が広がる（21〜22 節）。

・次の 3 年半の苦難
・ユダヤ人の人口が激減する。

＊イスラエルの残れる者へのメッセージ（23～28 節）
・メシア到来の噂に惑わされてはならない。
・メシア到来の際には、すべての人が見ることができる。

C. Revelation 12:1-17（黙 12：1～17）

＊1～5 節

「また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた」

＊歴史の回顧とまとめ（メシアの誕生の直前から昇天まで）

①1～2 節　ひとりの女のしるし
・創 37：9～11 のヨセフの夢
・この女はメシア誕生直前のイスラエルである。

②3 節　大きな赤い竜のしるし
・サタンである。
・7 つの頭と 10 本の角は、第 4 の異邦人帝国の最終的な姿を示している。
・この帝国はサタンの支配下にある。
・7 つの冠は、征服という概念を表現している。

③4 節　2 つのしるしが合体する。
・サタンは、悪霊の全勢力をイスラエルの地に呼び下した。
・メシアの初臨の計画を妨害するためであった。
・福音書に悪霊が頻繁に登場するのは、このためである。

④5 節　サタンの妨害は失敗した。
・この子（全世界を支配するはずの人物）は、天に上げられた（昇天）。

＊6 節

「女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった」

・患難期の中間に起こる出来事
・マタ 24 章と同じ。女は「荒野」に逃げる。
・ミカ 2：12　「ボズラの羊」（文語訳）
・エドムの地、ペトラという町
・逃亡の理由は、7～12 節に出て来る。

＊7～12 節

「さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。『今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである』」

・7～9 節　患難期の後半、サタンは第 1 の天から落とされ地上に住む。
・10～12 節　天使の戦争
　①天に喜びが起こる。
　②地上には災いが来る。サタンが怒って地に下った（残り 3 年半しかない）。

＊13～17 節

「自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った」

・6 節の続きとして読むべきである。女の逃亡の理由。
・地上に落とされたサタンは、女（イスラエル）を迫害する。
・さらに、12 節との関係でも読むべきである。
・14 節の「大鷲の翼 2 つ」は、逃亡が成功することを示している。
・女はそこで三年半の間養われる。
・15 節　「大水」は、軍事的侵略を示している。

・サタンは反キリストを用いて、エルサレムと神殿を征服する。
・そして神殿を汚す。
・16 節　イスラエルを滅ぼそうとする試みは失敗する。神の介入がある。
・17 節　失敗したサタンは、さらに怒りを増し加える。
・サタンは、イスラエルの残れる者を特に攻撃する。
・144,000 人を含めたすべてのユダヤ人信者である。

＊黙 12 章のまとめ
・患難期の後半、サタンは地に落とされてから、ユダヤ人を抹殺しようとする。
・世界大の反ユダヤ主義の戦いを展開する。
・最初の試みは失敗に終わる。

＊黙 13 章
・ユダヤ人を抹殺するための方法
①反キリスト
②偽預言者

D.　Zechariah 13:8-9 - The Final Result（ゼカ 13：8〜9 - 最終結果）

「全地はこうなる。――【主】の御告げ――その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『【主】は私の神』と言う」

＊サタンと反キリストの試みは、どこまで成功するのか。
・ホロコーストでは、世界のユダヤ人人口の 3 分の 1 が死んだ。
・患難期においては、3 分の 2 が死ぬ。
・ユダヤ人の歴史の中で最も激しい迫害が起こる。

フルクテンバウムセミナーDVD／CD

いずれもテキスト付き

2013 年『**聖書は千年王国について何を教えているか**』	DVD ８枚組／CD ８枚組
2012 年『**聖書が教える死後の世界 ― 個人的終末論 ―**』	DVD ８枚組／CD ８枚組
2011 年『**聖書が教える救いとは**』	DVD ８枚組／CD ８枚組
「救いの 10 の側面」「33 の事項：位置的真理に関する学び」	
2010 年『**天使論、サタン論、悪霊論**』	DVD ８枚組／CD ８枚組
2009 年『**終末論とイスラエル**』	DVD ８枚組／CD ８枚組
「ロマ書９章～11 章の研究」「ロマ書とユダヤ人」	
2008 年『**神の人類救済プログラム**』	CD ８枚組
2007 年『**三位一体**』	CD ４枚組
2007 年『**旧約聖書におけるメシア預言**』	CD ４枚組
2006 年『**イスラエル学**』	CD ８枚組
2005 年『**ユダヤ的視点から見たメシアの生涯**』	CD 12 枚組
2003 年『**ヨハネの黙示録**』	CD ６枚組
2002 年『**聖書の八つの契約**』	CD ９枚組
2001 年『**イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト**』	CD 10 枚組
2001 年『**アブラハム契約の歴史的展開**』	CD 2 枚組

ご注文、お問い合せはハーベスト・タイムまで
TEL：055-993-8880／FAX：055-993-8883
オンラインショップ：http://harvestshop.net/

無断複製・転載を禁じます

2014 年 5 月開催（大阪、東京）